

医療的ケアを必要とする重度重複障害児の地域生活を支援する 多職種ネットワーク活動

宮崎 つた子 氏

公立大学法人 三重県立看護大学 地域交流センター センター長
小児看護学教授



要旨

近年、医療的ケアが必要な子どもに関して、様々な社会福祉サービスで一定の保障がされるようになってきた。しかし、医療的ケアが必要な子どもや重い障害があると、在宅で生活するうえで福祉サービスだけでは対応困難なことが沢山ある。そこで、医療的ケアを必要とする子どもたちの地域での暮らしを「みんなで」支えていく事を目的に活動を始めたのが「e-ケアネットよっかいち」(<http://hokusei-you.net/e-care/>)である。今回、本会の「医療的ケアを必要とする重度重複障害児の地域生活を支援する多職種ネットワーク活動」に助成をいただき、以下の活動に取り組んだ。

主なネットワーク活動として、①多職種で具体的な支援を検討する「ケース会議」を年間4回開催、②専門職がお互い講師として研修を行う「多職種が参加する研修会」を年間4回開催、③当事者の声の「記念講演会」を1回開催、④今後の「活動検討会」を1回開催するなど、4つの内容の企画・運営を実施出来た。本活動を通して、今後も医療的ケアを必要とする子どもと家族の支援、多職種ネットワーク活動の啓発・普及に貢献していきたい。

1.活動の概要

平成29年度で活動6年目を迎えた「e-ケアネットよっかいち」の活動概要は、①多職種で具体的な支援を検討するケース会議の開催、②多職種が参加する研修会の開催、③当事者（医療的ケアが必要な重度重複障害児を育てる母親や家族の声）の記念講演会の企画・開催、④医療的ケアの必要な子どもと家族を支援するボランティアクラブの活動、⑤先進施設の視察研修等を柱に活動を行っている。

2.活動内容と実績

今年度は、本人・家族への支援（多職種で具体的な支援を検討するケース会議）と研修会（多職種が参加する研修会）を同日で第1部・2部として開催した。

（ケース会議の詳細については掲載しない）

(1) 第1回ケース会議および研修会

- ・日程：平成29年6月4日（日）14時～16時
- ・参加者：33名

- ・ケース会議：事例（小6児童）
- ・研修会：講師：桑名保健所所長 長坂裕二先生
「小児等在宅医療連携拠点事業」の報告から、行政の取り組みやモデル事業、実態調査等について多職種で研修を行った。

(2) 第2回ケース会議および研修会

- ・日程：平成29年9月24日（日）14時～16時
- ・参加者：26名
- ・ケース会議：事例（小1児童）
- ・研修会：講師：済生会明和病院なでしこ

青木哲也先生

済生会明和病院なでしこの活動と「みえる輪ネット」の活動報告を共有した。

(3) 第3回拡大研修会（当事者講演会）

一般市民の参加を可能とした。

- ・日程：平成29年12月3日（日）10時～12時
- ・参加者：83名
- ・当事者の講演会：講師 3歳児の家族の方

医療的ケアが必要な重複障害児の母親(家族)を招聘して、「地域であたりまえの暮らしを」というテーマで講演会を開催した。医療的ケアが必要な子どもと家族に関わる沢山の専門職と家族の皆様に参加いただき、地域で何が出来るかを共に考える機会となった。



(4) 第4回ケース会議および研修会

- ・ 日程：平成30年3月4日(日) 14時～16時
- ・ 参加者：28名
- ・ ケース会議：事例(小1児童)
- ・ 研修会：講師：独立行政法人国立病院機構

三重病院 高村純子先生

三重病院での取り組みと医療的ケアが必要な子どもをもつ母親の会の立ち上げ報告を共有した。



(5) 活動のまとめと特別委員会の立ち上げ

- ・ 日程：平成30年4月22日(日) 14時～16時
- ・ 参加者：12名(代表者)
- ・ 内容：平成29年度の活動のまとめと次年度の「e-ケアネットよっかいち」の取り組むべき事項の検討を行った。

3.活動の成果

(1) 重度心身障害の子ども・家族への支援

実際のケースに対して、研修会で知り合った多職種が連携し、具体的支援に繋がられた。この研修会

を通して、多職種同士が顔の見える関係になりつつあるといえる。現在、四日市を中心に累計40事例の具体的な支援を多職種で取り組むことが出来た。この活動は、多職種で支援を生み出す地域包括ケアに繋がっている。

(2) 多職種参加者の資質向上

お互いが自分の専門分野の活動や仕事内容、地域での役割、課題などを話し合うことで、職種を越えた学び合いが出来ている。実際に、「専門職が日頃使う用語の違いや活用する制度、取り組みなど、この研修会で新たに知った」、「多職種の担当業務や役割の理解が深まった」などの評価が得られている。

(3) 地域への啓発と多職種ネットワークの広がり

我々の活動のケース会議や研修会では、各回25名～35名の様々な職種(特別支援学校教諭、理学療法士、行政、医師、作業療法士、理学療法士、メディカルソーシャルワーカー、相談支援専門員、看護師、保健師、鍼灸師、大学教員、ボランティア学生など)が主体的に取り組んでいる。また、様々な職場や関係機関から参加が有り、切れ目のないネットワークづくりの機会となっている。さらに、医療的ケアが必要な子どもを育てる母親や家族の記念講演会は、県内外の多職種や地域住民の参加もあり、地域への啓発に繋がっている。このような、実際に地域在宅で暮らす重度心身障害の子どもと家族の実態を、同じ空間で話を聴き、その生活状況を知ること、当事者と多職種、地域住民が同じ温度で状況を共有する貴重な機会になっている。

4.今後に向けて

三重県では、「e-ケアネットよっかいち」の活動から、その後、行政や関係機関の協力・連携、沢山の支援を得て県内全域に活動が広がり、ゆっくりではあるが、確実に多職種連携の輪が広がっている。今後も、切れ目のない多職種連携ネットワーク活動の取り組みに努めていきたい。

謝辞

本研修会および講演会での講師を快くお引き受けいただきました皆様、ご協力いただいた関係者の皆様、杉浦地域医療振興財団の皆様に感謝申し上げます。